

□ある集いその足あと

神戸能面工芸会

前田 薫

〔神戸市教育委員
財団法人OAA事務局長〕

人々はよく「能面のような」と能面を無表情の代名詞に使いたがるが、どうしてどうして能面ほど豊かな表情のものはないと思う。

演能の曲目によって、演じられる役柄によって、又舞台正面からみるか脇正でみるかによってもさまざまな感情を受けとることができ。そんな能面の魅力にとりつかれたものたちが昭和四十一年から集って勉強をはじめたのが神戸能面工芸会の始まりである、最初は十名にも満たない数であったのが現在では七十名とふくれ上り月一回第一、第三土、日と分けて開かれる稽古日は常に満員である、この会がここまで盛大になったのは一にかかって当代一流の能面師堀安右衛門師の直接のご指導を受けられたことであるが、教室に自宅を提供して下さっている野司氏ご夫妻のお心遣いと会員が一族のように助け合って来たことも忘れてはならない。会員は二十才代から八十代と巾広く職業も凡ゆる会社の社員、主婦、医師、看護婦、学

校幼稚園の先生、農業商業の経営者と多様であるがみな仕事の余暇の精進で腕はプロ級の人でも本職ではない。会員の中には東京、島根など遠方から来ている人もある。最近全国的に能面づくりグループが増えているが神戸能面工芸会は「古面に忠実であること——即ち先生から多くの古面を見せていただくことが出来、それをお手本に製作できること、単なる飾面ではなく常に舞台に掛けられる状態を



堀安右衛門師（左）の熱心な指導をうける。

心に刻んで製作している」ことが誇りで、内容的にも人数の上からも日本有数のグループであると思負している、よい面を作るには何といっても刀の切れ味——これは物理的な意味と所謂腕の冴えであると思われるが、人間の顔と同じで同じ型の同じ面でも目反の長さの毛筋程の差で全体の感じが違ったり、口の切込みの一寸した差でア

ルカイックな微笑になったり、動物的な笑い顔になったりもする。

そのために木彫の段階で何となく作者の顔に似て来て名前が書いてなくても誰のものが判る恐ろしさもある。しかしその面特有の情感が仄かにただよう作品が出来たためには単なる小手先の切れ味だけでは駄目で、作る人の心映え、生きざま、飽くなき研究心、その人が人間としてもっているものが物をいうのだからと教えられている。

常に自分本位であつたり、自らを見つめることができないものは上手な、綺麗な面は作れても舞台の上からしみじみと人の心に呼びかけられるような面は打てないのだと、みなそれぞれ自分に厳しく精進している。

この会は又年一回の楽しみと勉強のために、各地の神社などに所蔵されている門外不出の古面を見せていただくための旅行をしている。一面一面に秘められている歴史が、面の表からも裏からも語りかけられ暫し現実を忘れる。特に豊太閤拝領などの文字が見えると、昔のかがり火に映える能舞台や、人々が綺羅星のように並ぶ華やかな光景が目に見え。一つ一つを丁寧に拝見し、製作のための心の糧にしている次第である。

□お問い合わせ 兵庫区中道通2丁目1-10
幹事 野司俊男 ☎078-576-8945

月刊神戸つ子18周年記念座談会

神戸は今、開港以来 最大の岐路に立たされている

梅棹 忠夫

〈国立民族学博物館々長〉

久山 康

〈関西学院々長〉

大島 襄二

〈関西学院大学文学部教授〉

京阪神三都は独自の発展段階をもつ

久山 神戸は長い間、横浜と並んで日本の大きな開港場として重要な役割を果たして来ました。しかし、同時に大阪を控えて大阪の外港としての役割も果たして来たのじゃないか。京都と大阪と神戸の性格の相異、それから、東京と横浜との関係と、大阪と神戸との関係は少し相異があるのじゃないか、と思うのですが。

梅棹 関東は東京を中心とした一元的構造でしょう。関西は歴史的に異なる経過を辿って発展して来た諸都市の連合体だということですね。「上方共和国連合」という形になっている。その点では関東と非常に違う。どれが中心になるという考えはダメなんです。大阪が関西の大中心だという考えは成り立たない。さらに問題は複雑になって、京阪神三都に加うるに最近では「千」というも

のが現われて来た。千里というものが、京阪神三都とほぼ等距離を保ちながら、独立のセンターとして発展し始めた。中世以来の「上方共和国連合」と違う要素が現われて来ました。神戸ですら中世の伝統を踏まえているのに、それに対してまさに現代の、中世も近世も何もない町が加わったという大変面白い現象が起っていますね。

久山 千里というのは、神戸のもっている国際性と、京都のもっている大学都市としての文化性、それと、大阪のもっている、産業が必然的に出会うという国際性というものの総合の上に出て来ているのでしょうか。

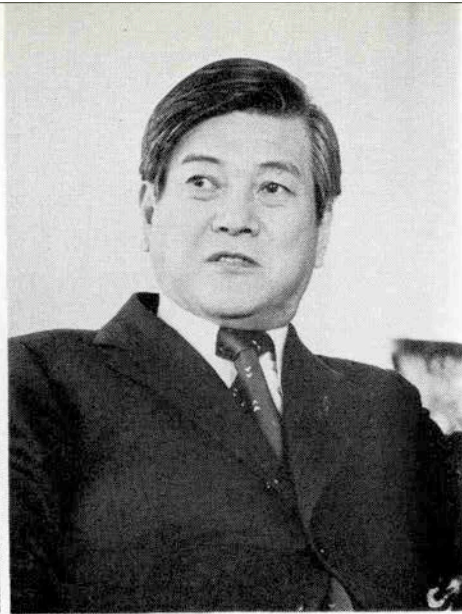
梅棹 そうだと思います。そういう点からいうと千里と一番性格が違うのは大阪なんです。大阪府内ですが大阪と違う。元々ベッドタウン構想で出発したのですが、今はベッドタウン離れを起こし、別のものになりつつある。それは何かというと国際文化都市です。非常に面白



大島 稔二さん



久山 康さん



梅棹 忠夫さん

いことになって来た。私は神戸の西神ニュータウン、および、研究学園都市構想は、どういう道を辿るか、興味津々としているのですよ。独自のものになり得るかどうか、あるいは、神戸のエクステンションに過ぎないのか。

久山 今までは大学という、神戸大学、これは神戸高商が発展して来たものですが、その近くに関西学院の高商部があった。神戸女学院も神戸で成立し、関西学院も成立した。この二つの学校は、神戸の国際的な性格、また、神戸のハイカラな中産階級的な性格を映しているのじゃないかと思います。そういうものが神戸から西宮へ出て行ってそのあとに神戸大学が形成されて来る。それと違った新しい時代感覚で学園都市が開かれようとしているわけです。

梅棹 私は今、各地でいわれております学園都市構想に若干の疑問をもっているのです。つまり、神戸でも、やや古くは、むしろ極めて学園都市的な性格が強かった。それが一般的な大都市に解消した。学園都市を形造っていた中核は全部外へ退避したわけです。そういう歴史的経過を考えると、ここでもういっぺんそういうものを集結することの意味は何なのかということですね。どうもよく分らない。千里は違うんです。千里は初めから研究学園都市などとはいっていない。むしろ、ただの住宅として始った。それが立地条件の良さを求めて様々な大学機関や文化機関が集まり始めている。方向が逆ですね。大島 他所の人は京阪神を一つにまとめているけれど、京都の文化、大阪の文化、神戸の文化はいろんなところで違う。私は、京阪神の文化で基礎ゼミの勉強をやらせたことがあります。そのときに繁華街がつくられたときの名前のつけ方を調べたが、京都は新京極、神戸は新開地、大阪は新世界とつけた。京都は新しいものをつくっても京都の延長でしょう。大阪はドエラク新世界といういい方をする。神戸は味も素気もないというか、ただ、実質的に新開地という。ところが、そういった繁華街が

町の中に占める位置づけでは、新京極は京都という従来の古さの中ではやや新しい地域であり、大阪の繁華街はまったく庶民のものとして本当に雑踏の町ができた。神戸は、それじゃ新開地が繁華街の中心になっているかといえ、その後の神戸の中では決してそうじゃない。むしろ神戸全体が新開地になった。

また、外国人がそれぞれの町をどう解釈しているか、ということを書いて回ったんですが、神戸の外国人は、自分たちの国で生活しているのと同じような気持ちで生活している。住みやすいということですね。京都の外国人は京都を非常に意識して何か違ったものを捜そうという形で京都を見ている。大阪の外国人は、朝鮮・韓国の人以外は市内に住みつこうとしない。神戸の国際性とか自由だとか平等だとかが原因ですが、一方ではそれが文化が通過することになる。そこに停滞、澁みが起こらない。流れて行ってしまうって、常に新しいものが流動している。

神戸港にしても入って来る荷物、入って来る人が神戸にとどまるのではなくて、神戸を経由して外へ広がって行くという、そういうものだから、神戸の文化がそこに集積するという性格は初めからないわけです。神戸を経由するという性格ですね。ヨーロッパの中世の都市は自由の空気を与えるといったんですが、ある意味では、港も開かれた世界ですね。これから神戸の文化がどう形成されるのかということですが、大阪の文化、京都の文化は永年外に出さないからこそ集積された。それに対して神戸はこれから新しい文化をつくって外に出さないで、きちんと神戸の中で収めるようにするべきかどうかということになりますと、むしろ、そうならないのが神戸じゃないか。澁になって淀むということは将来ともないんじゃないか、と思うのですが。

神戸の将来は“非国際化”への道

梅棹 今、人口でいうと、日本第二の大都市は横浜です

ね。これが港横浜でそうなったのかというと全然違うんですよ。東京周辺の新興都市としてどんどんふくれ上って、港機能というものは少ししかない。横浜文化というものが一体、あるのか、どうか。あるとしたら、それは港によって、あるいは港のもつ国際性によって培われたものであるかと思ったら、全然そうじゃない。私は、神戸も同じような傾向を辿って行くと思いますよ。港を中核にして、神戸の国際性が発展したりする見込みはあまりないんじゃないかと思う。若干の努力はあると思いますが、まったく効果がないとは思わないけれど、そういうことではなく、やはり神戸市の発展を支えているのは、それこそ西神地区であり、北摂であり、そういうヒンターランドであって、今までの伝統的神戸のイメージとはもう非常に違うものにならざるを得ない。人口もどんどんそちらの方へ動いて行きますしね。そうすると、あるいは、三百万都市、四百万都市への道が出て来るかも分らない。むしろ、京都、大阪に比べて神戸は横浜と同じように無性格都市で発展できるのかも分らないですね。

久山 神戸が中継港のような形でアジアなんかモノが出て行くということですが、ランバス先生が関西学院をつくったときには、神戸を東洋伝導の基地にする、日本の伝統と同時に、神戸は国際都市だから東洋に対して責任をもつという考えがあった。そういう性格を未だに残しているところがある。しかし、それが、おっしゃるように、これからどれだけ発展するかというと、輸出入にしても産業の構造が変って来ましたので、難しいところがあるんじゃないかと思えますね。

ただ、ファッション産業に神戸が力点をおくということの中には、外人も多くて、そこでは少し時間をかけて洗練されて日本人のものになったファッションが出て来たからです。通り過ぎて行くファッションじゃなくて、日本人に受容されて、その中で、ただ仮着じゃなくて、日本化された西洋のファッションがそこから出現し

て来る。そういうものを今まで
はもっていたんですね。昨今は
昔屋なんか、むしろ、神戸が
今までもっていたファッショ
ンの性格をどこか継承しながら、
神戸と大阪の間で生活的新し
い文化が成立して来るような場
所として生成されて来ているの
じゃないですか。神戸のファッ
ションといっても何か前と違っ
て来たようで、これから伸びて
行く新しいエネルギーは、今ま
での神戸のイメージをこわすよ
うなものとして出て来ていると
いうこともあるのじゃないですか。

梅棹 神戸がファッショ都市だというのは願望ではあ
るけれど、それが神戸の発展を支えて行っているとは思
えないし、今後もそういうもので榮えるとは私は考えな
いですね。現在の日本のファッショなら断然京都です。
桁違いに京都です。神戸にはとてもそういうものがない。
世界性もない。一つの願望として、イメージとして
はあり得るけれど、実際はそういうものじゃない。また、
外人がたくさんいることの国際性もとても神戸を前へ押
し出して行く力にはならない。むしろ、神戸の前途は非
国際化だと思う。横浜と同じなんです。

久山 神戸は非常に洗練された洋風なファッションとい
うことで、ある時期それは成立していた。ところが、海
外との交通が昔の比ではなくなってきた。それが変わっ
て来たのと、京都は、いっても日本の古い王城の地で、そ
こでは本当に純粹に日本的なものが、高度に洗練された
ものが残っている。新しいファッションも西洋の洗練さ
れたものだけをとり入れるというのじゃなくて、日本民
族のもっている洗練されたそういうものにまで入って来
ると神戸では間に合わなくなつて、京都のへんまで来な



神戸は今、転換期にある……と語る三氏

いと、伝統的な日本というものと接触がとり
にくいということがあるのでしようか。

梅棹 大衆消費社会の成立と発展の過程の中
で、外国的なものを導入する窓口としての役
割が著しく小さくなっているでしょう。むし
ろ、京都のように一見伝統的なものの方がマ
ーケットシェアがものすごく大きい。やはり
ドメスティック（非国際化）傾向だと思う。
国際化が進めば進むほど実はそういうことが
起くる。大変面白いことですね。そうでない
と国際化時代に耐えられない。国際化時代で
なかったときには、神戸のように国際的なも
のが意味をもった。今日のように世界が一体
化されて来たときには、やはり、自分たちの

もっていた文化的な伝統の自己主張がなければ、とうて
いもたない。神戸は、通過港であつて、パイプなんだ。
一体、ここに独自のものがあるのかというと、何もな
い。むしろ、外に對する関心を失つて、ドメ
スティックな大都市として発展し始めたまた別のもの
が出て来ると思う。その意味で、私は神戸は試練に立た
されていると思う。つまり、明治大正昭和にかけて発展
して来た近代百年の歴史の中で神戸の果たして来た役割
は安定していた。今はその果たすべき役割がなくなりつ
つあるときですね。

久山 神戸は、明治以後の近代化の中で港として成立し
て来たのですが、港が日本の産業の集約で、そこで機能
を果していた時期が外れて来て、しかも、近代以前の日
本の伝統というものの人間の心の動きとしては帰って行
かざるを得なくなっている。国際化が進めば進むほど、
伝統が国際的に交流し合う時代になって来て、明治以後
に成立して来た都市は存在の根拠をもういっぺん問ひ直
さなければならぬ時期が来ていますね。日本の近代化
そのものが根拠を問われる時期が来ています。

梅棹 そうだと思います。ある意味で産業的にも文化的

にも熾烈なる国際競争時代に入って来ると、そのときに残るのはハイカラさんじゃないですね。ハイカラでは絶対に生き残れない。そうなると、ものすごく強いのは京都ですね。神戸は近代百年で果していた役割を転換しないといけない。ちよつと難しいところに来てゐる。貿易機能という点でも、世界の構造的変化にうまく合っているかどうか疑問ですね。世界の構造的変革、日本の構造的変革に対応して、神戸がどう対処して行くのかは大問題なんです。今のところ未だ解答は出ていない。

個性ある都市の時代は終った

大島 高度経済成長時代までの貿易は、工業原料、工業製品が中心で、昔は横浜と神戸が中心だったのが、今では名古屋でも四日市でも各地方に港湾が整備されて来て、お互いに分取り合いをした挙句に経済成長がストップした。そういうことで、みな共倒れをした。共倒れをしてしまった中で、まさに神戸の暖簾が生きるのか、生きないのか。今さら神戸でなければならぬようなものが動いているかっていうと、それもちよつと悲観的ですね。

久山 神戸にたまたま今まで成立して来ていた造船とか鉄鋼関係とかは不況産業になって来ている。神戸は港に付随して工業で繁栄して来る道をもっていたが、それが打撃を受けて前途が暗い。そうでありながら、神戸のイメージをどこまでも追わざるを得ないところがありますね。しかし、今は北摂が新しい背後地として成立して来るとか、西の方にも新しい産業都市が成立して来るとか、今、性格が急激に変化しながら、過去のものをどうつないでやって行くか、非常に混乱した状況の中で考えなければいけないですね。ポートアイランドの開発で過去に神戸のもっていた意味を再構成して行く。それと明石の方の新しい住宅地の構成で、阪神の中で違った性格のものを付与して行く。伝統的なものと新しい神戸市の性格づけと二つに分かれながら、しかもその中で学

園都市をつくって行く。

梅棹 神戸はフアッション都市とか港湾都市とかいろいろいいながら、実際は神戸を支えていたのは第二次産業なんです。神戸は今、違う方向へ脱皮しつつある。第二次産業が、第三次、第四次、第五次産業の方へ転換している。研究学園都市というのもそういうことなんで、工業都市と違うぞという宣言なんです。

大島 十年ほど前、日本中のどんな田舎へ行っても村役場に観光課ができたでしょう。一億総観光で、観光とさえいえばお金が落ちると思っていた。あれを学園という名前に置きかえられたみたいですね。幻想がありますね。

久山 この前、坂井県知事の話聞いていました。新しい学園といいますが、その中で非常に注目しているのは芸術の分野ですね。芸術というものが産業として成立するわけで、第三次産業に関連していますね。放送だとか演劇とか、そういうものが文化生活の充実という形で成立して来る。たとえば学術都市といつても、京都や東京のもっている基本的な意味で学術というよりも、産業と結びついた形の新しい学園をつくって行くということも大きなウエイトをもっているのではないかと感じます。アメリカなんかでもそういうことが非常に盛んだということですね。そういうことによって新しい産業の構造も今の二次産業から三次産業へ転換して行く。

大島 神戸は流通機構の中にいる。だから受け取った側がどこから入ったインフォメーションか、元を探れば神戸から入っていたという感じのものが、漠然と広がっているのが神戸だという感じがする。核がないんですね。

久山 神戸でもよく国際性と郷土性、あるいは地域性ということがよくいわれますが、自分の住んでいる町の産業を起こすという意味では郷土性が強く自覚されなければいけないですが、国際性と民族性と、その中の郷土性というような、一つ大事な民族というものがのけて考えられると問題が本質的にならないところがあるのじゃ

ないかという気がする。日本の民族の伝統に根ざした郷土性が求められているのじゃないか。神戸のように明治以降成立して来た町は、民族の伝統ということを出すと、神戸の存在そのものが非常に稀薄になって来て、独自性が失われて来るという心配があります。だけでも、今、むしろ、国際性と民族性の中で地域とか郷土とかが問題になって来るようなところが現実には問われているのではないかと感じがします。

梅棹 今や大阪が、神戸かということにはなくなっている。大阪湾岸都市連合というものが次第に形成されつつある。その中で神戸の役割は何なのかということですね。そういう大阪との再位置づけを必要とするようになって来ている。神戸は独自の発想で……という前に考えないといけない。連合体の中の神戸なんだということです。また、「上方都市連合」自体が再編成を迫られている。いずれにしても、ゆるやかな連帯しきれないですね。湾岸都市連合、および、それを中核とする西日本全体のネットワークの中で位置づけをされて行く。

久山 兵庫県なら兵庫県、神戸なら神戸で何でも独自にもとうと、他との連関なしに考えるとダメですね。地域の方は一つになりつつあるので、地域全体の中で神戸はこういう分担をするんだという考えが必要ですね。

梅棹 私は、個性ある大都市の時代は終わったと見ています。むしろ、無個性的な、規模においてそう差のない都市で全国はおおわれて行く。それは格子状構造になって行くだろう。いろいろな機能をそれぞれに兼ね備えた中都市、小都市が地方にしっかりと育って行く。大体似たようなものになる。それはある意味では、封建都市化だと見ているんです。日本の大人口をうまくバランスをもって発展させる制度としては、封建的地域性というものには極めて有効に働く。急速に近代化をするために、中央集権制度は機能を果し、大體成功したので、ここらでもういっぺん我々のもっている地域的伝統、封建的秩序の見直しをやる必要があるだろうというのが基本的な

考え方なんです。

久山 大正の初めから昭和にかけて地方の高等学校ができたでしょう。そのときはそれぞれの都市の性格がハッキリしていた。今は産業の構造がずい分と違って来て、どこでも同じような産業で、特色が出しにくい。無性格な、しかし、地域的に中心をもったようなものになっている。しかも交通が便利になっている。そういう中でもう一度、地方都市が整備されて来ると、今までとまったく性格の違ったものになるでしょうね。

大島 かつての藩の時代には、各藩がそれぞれ殖産興業といういい方をして独自の伝統産業ができた。それに近いような感じの個性はやはり必要だと思いますね。神戸も横浜もそういう意味では何もない。だから開港場になれたんです。

梅棹 封建制の一番大きなメリットは、都市間競争があるということですね。その中から様々な文化的、経済的創造力が湧き上って来る。巨大都市による独占と支配を許さない方がいいということです。その方が国民全体に活力が出て来る。都市の田園化だと考えています。神戸や大阪のような巨大都市でさえもある種の田園化は進行する。同時に田園の都市化が進行する。そういうことによって全国が比較的ホモジニアスなものになって行く。今、一番困るのは経済、文化、権力の集中なんです。それをどういうふうに均霑して行くかが現代の問題です。

ただ、田園の「田」はたんぼという意味ですが、思想的系譜としては十九世紀にすでに出来たわけですね。元は英語で Garden city なんです。都市にガーデンをもつことは、そう難しいことじゃないですね。

久山 神戸でも新しい理念として田園都市構想をもつということは、他にさがけていいのじゃないですか。

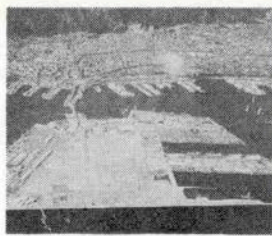
梅棹 私もそう思っているんです。地方の小都市ではなく、神戸とか大阪とかの大都市がそれをやって欲しいという事です。

経済ポケット ジャーナル



★計画すすむ ポーアイ

ファッショントウン
建設中の神戸ポートアイ
ランドにファッショントウ
ンの建設計画が進められ
ていたが、市の用地分譲第
一次一般公募によって、よ
やくその実現への第一歩が
踏みだされた。



神戸ポートアイランド

ファッショントウンは、
インターナショナルスクエ
ア二十八ヘクタールの一面
にファッション関係企業の
本社機能に移転し、ファッ
ション大学、史料館、博物館
などを建設しようとする構
想で、昭和四十八年に設立
された衣料メーカーの協同

組合KFC C A本口衛理事長V
が中心になって進出準備を
していたが、不況などによ
り中断。しかし各企業単独
の進出計画によって、ワー
ルド、オールスタイル、キム
ラタンなど神戸市内の大手
中堅ファッション関係企業
十数社が進出の見込み。神
戸ポートアイランド博覧会
終了後、昭和五十六年夏に
着工、五十八年秋ごろに完
成の予定。

★神戸市観光バス

黒字路線を走る

風見鶏ブームで神戸の観
光もちよとしたもの。神
戸市交通局の市内定期バス
の五十三年度利用者数が、
今年一月十七日に早くも二
万人を突破し、戦後初めて
の黒字計上の見込み。

神戸市内定期観光バスは
常設のA、Bコース、季節
運行のCコースがあり、異
人館、神戸港、水族館など
神戸名所を巡っているが、

風見鶏や酒倉など神戸の観
光ブームに同局が便乗して
新しい需要を掘り起こすた
めのPRや新企画に力を入
れたことによって利用客が
増えたもので、昭和十一年
の観光バス開設以来、はじ
めの三年間を除くと赤字続
きの事業に明るい話題。ま
た貸切りバス部門は、現在



大ウケの神戸市観光バス

十台のバスがあるが、五十
三年度の売上げを一億八千
万円と予測。このため五十
四年度中に三台増やすこと
も検討中と意気盛んな神戸

★KOBEOフィスレディ★



三宅 安子さん (23)

＜兵庫トヨタ園本社営業所＞

「会社の人がみんないい人ばかりで仕事も楽し
いです」っていいながら、本社一階のショール
ームで受付を担当。明るくよく気がついて……
とは社内での評判。洋裁を習い、休日はテニス
を楽しむ。結婚は？——「今、やりたいことが
いっぱいあって、あんまり考えていない。……
そんなこともないけど……」と本音もチラリ。
竹脇無我みたいな人がいいんですって。さそり
座。長田区在住。(武庫川女子短大卒)

市交通局だ。
★港めぐり船「ゆうかり」
今月デビュー

異人館や酒倉の「新進観
光地」に対して、観光神戸
として忘れられない存在に
ミナトがあるが、今月中旬
に港めぐりの大型観光船が
新しく神戸港に登場するこ
とになった。

この船は、神戸通船(株)
が建造したもので、一般公
募により「ゆうかり」と命
名。去る一月十九日、兵庫
区の新造船で進水した。
長さ三十二メートル、幅六
・五メートル、一六五トン
とこれまでの遊覧船に比べ
て一回り大きく、四百人の
客をのせて、中突堤、ポー
トアイランド、摩耶、兵庫
ふ頭の港内遊覧に利用され
る。また、甲板上で船上げ
バーティにも使用できるよ
うに設計されている。

刀劍 古美術



定價 ¥1,000,000

刀 劍 元 美 術
古 術

TEL 078-351-0081



きもの工芸

おんがら屋

神戸

本部・仕入部
本店
さんちか店

神戸市東灘区青木五丁目一五〇一九
神戸市生田区三宮町二丁目一〇五
神戸市生田区三宮町一丁目一

電話〇七八—四五一—五二九〇（代）
電話〇七八—三三二—五二九八（代）
電話〇七八—三三二—一七〇〇

東京

銀座コア店
銀座メルサ店
渋谷東急店

東京都中央区銀座五丁目八—二〇
(四階きものコア)
東京都中央区銀座五丁目七—一二
(六階和装街)
東京都渋谷区道玄坂二丁目二四—一
(五階民衆劇場)

電話 〇三一五七三—五二九八(代)
電話 〇三一五七四—八〇六五(直)
電話 〇三一四七七—三四〇九(直)

日本橋東急店
池袋バルコ店

東京都豊島区南池袋一丁目二八—二
(四階呉服売場)

電話 〇三—二二— 〇五二 (代)
(内線二九四)
電話 〇三—九八七— 〇五六 (直)

●月刊神戸っ子18周年記念

第8回ブルーメール賞／文学部門選考座談会

農民の意識を描きつつける 新進の桜井利枝に

小島輝正（神戸大学教授）森川達也（文芸評論家）島京子（作家）

木優も活躍していますね。

しうつとうしいですね。

文学部門は今年は小説で選考をお願いします。あらかじめ島先生から広重聰（V.I.K.I.N.G. 同人）田口佳子（旅と湯と風 同人）桜井利枝（AMAZON 同人）の三人の方が推薦され、最近作の「傾日」（広重）「花狂い」（田口）「旧怨」（桜井）が参考にあがっています。ところで、この三人以外はどうですか。

島 他には、コンスタントにある程度のもを書いてるのに谷口謙（西播文学 同人）がいますね。年配ですが西宮の「浮標」という詩の雑誌に百何枚かの小説を載せていました。この前の「西播文学」にも書いていました。

小島 殆んど生活日記みたいなのですね。

島 「崖」という同人誌が神戸から出ていますが、永井直樹は本当の新人でまだ一作だけなんですが素直でとてもよかったです。女流の柏

★ムラなく読める
広重、田口、桜井

小島 桜井は農民文学賞を貰いましたね。何という作品ですか。

島 「もずの庭」です。この人は真面目というか、一生懸命にやっています。作品数は少ないですが。

森川 三人ともよく書いて来ているので、ムラなく読める。出来上がりはみんな水準以上の作品になっていますね。一番長く書いているのは広重ですね。

島 田口も「旅と：」が出るたびに載せているが、「花狂い」が一番ましですね。

森川 印象からいうと一番面白いと思ったのは「花狂い」。いろいろと問題はあるが、問題があるだけに面白い。一番、成程と年輪を感じさせたのは広重です。

小島 広重のこの作品は題材が少

森川 一種の心境小説でしょう。心境吐露みたいな感じ。その点ではそつなくまとめていると思うがもう一つつつまないと文学にならないと思う。その点は桜井にもいえる。もう一つ剔抉しないと。

島 広重の場合、主題に影響のないエピソードがチョコチョコ出て来すぎる。どちらも素材密着だが桜井は自身に密着した問題で、社会における弱者と強者のことを書き、読者を引き込む熱気が多少感じられるが、その熱気が広重には足りないと思いますね。それは自分自身の眼じやなく他者の眼で見ているからですね。桜井は本当に自分の問題として書いている。

小島 広重は前に書いたものでもこういう感じですね。

森川 自分の持ち味みたいなものですから、これ以外は書けないでしょう。桜井については、今、熱

気ということがいわれましたが、この作品に関していえば、これは都市近郊の農民の生活感覚とか生活心理を書いているんじゃないですね。僕はやり切れない農民の生活感覚みたいなものを書いていると読んだんですけどね。ただ、そういう点に関して基本のつっ込みはどうなっているのか、僕はものすごく不満だったわけです。農民の意識の動かし方は、成程、こうやろなあという風には思いましたけどね。

★頭打ちの感のある

“女流文学”

小島 田口はどっちかといえばいわゆる“女流文学”ですね。情緒的なお話をつくって女っぷりを見せる。何とか女であることを見せようという型の人だと思う。無論、力量のある人ですから、この手の作品はズツと書いていけるでしょうし、場合によっちゃ長いもの、相済みっちりしたものも書けると思えますね。ただある限度というか、頭打ちがある。

森川 僕もそう思いますね。



小島 輝正さん



森川 達也さん



島 京子さん

小島 ある水準まで来ますけどそれ以後いかに頑張ってもその水準以上は書けない。将来の可能性という点ではもう一つですね。これは、女流の同人雑誌の傾向といえますか。もちろん全部ではないですが。相当うまいなあというのがあります。きちつと書いて小説作法も勉強して優等生の作品なんですけど、ただそれだけで、頭打ちだという、そういうところがあるんですね。エネルギーが技術主義みたいになって、これは何かここから面白いものが出て来るぞという気がどうもしないですね。

森川 自己批判ということが全然できていない人で、それができなくて作品を放り出している。この作家のそういう性格を見ている方が面白かったですね。

島 ズツと読んで来ますと田口の作品にはそれはありますね。女の悪い属性をいっぱいもっている人みたいですね。「花狂い」は読んでいても何かもどかしくてもっと整理をして欲しかった。広重はいろんな問題がからんで来る。桜井は特にいいこともないし、構成も

平坦なんですけど冗漫なところが少なくて……

小島 サバサバしてますね。

森川 裏からいえば全然つっ込んでないね。農民なら農民のもっている本質を何にもつっ込んでないと思う。書いているだけであってお前さん、どう思うのかという、そのところのつっ込みが全然できてない文学にならないと思う。

島 しかし、そこまで要求するのは無理だと思いますよ。今から勉強してもらわないと。

森川 作者はどこに自分の位置をおいているのか分らない。

小島 ブルーメール賞の場合はこの作品で受賞を決めるというのではなく、今までの実績と将来性で決めるので作者本位で行けばどうですか。桜井はまだまだ未熟ではあるが将来性を加味してね。この「旧怨」一作だけだと受賞というわけには行かないと思うが。

森川 僕もそう思いますね。そうはいっても体験談だからリアリティはあるし、農民文学賞をもらったというのは一つの実績ですね。島 この人はこれからもどんどん書いて行くと思いますね。

小島 賞をもらってももう少しふっ切れて度胸がつけばもっとよくなりますよ。

— それでは桜井さんに決めさせていただきます。(文中敬称略)

地味な福祉ファッ 取りくむ米田博司に

福富芳美（神戸ドレスメーカール女子学院々長） 森本泰好（神戸地下街株式会社常務） 畑崎広敏（ワイルド社長）
藤本ハルミ（デザイナー） 小泉美喜子（エディター） （文中敬称略）



編集部 昨年から新設されたファッ
ッション部門の第一回受賞者はデ
ザイナーの藤本ハルミさんでした
神戸の街にもファッッション都市の
イメージが定着してきました。こ
のファッッションを生活文化として
広い意味で捉え、活躍されている
人々を推せんしてください。

福富 ではデザイナーにこだわら
ず、店作りに励んでいる人やファ
ッション界全般でということね。

けれど中途半端に確立している人
にはもうひとつ、という意味から
年齢も必要だし、神戸に定着する
人がいいですね。

森本 ある程度将来の見通しがつ
く人の方がいいね。

藤本 もちろん、年さえいってい
ればいいのではなく、その人の個
性が色濃く出るには年月も必要だ
ということですね。

★記念すべき

「神戸洋服百年史」

福富 ニットの市野木江充子は昨
年も2回ショーを開いたし、地味
な仕事を堅実にやっていますね。

小泉 作品に彼女の個性が出て来
ましたし、一回ずつよくなってる
から非常に楽しみです。

畑崎 企業のやるショーほど予算
もとれないだろうし、市野木さん
の意欲とファイトを買いいますよ。

小泉 ルナや扇月堂でショーを開
いた浦野敏彦はどうですか。

福富 まだ未熟ですが、センスは
いい、才能がありますね。

藤本 私もショーを見て感心しま
した。発想も、色彩感覚も神戸らし
く良いのでじっくりしてほしい。
畑崎 時間が経って落ち着くと、
何かを掴むかもしれないね。

小泉 KFSのメンバーで身障者
に洋裁を教えている米田博司は、
身障者のためのファッッションを
かけて地道な活動をしていますよ
藤本 身障者は洋裁技術が身に付

いてもなかなか企業では雇っても
られません。そこで身障者のお母
さん方がいろいろ工夫されている
のに専門的な知識を与えて将来は
そういう人達と一緒に身障者のた
めのファッッションを企業化するの
が彼の夢なんです。

畑崎 KFSのメンバーの協力と
いうのも彼にとつては大きな力に
なっているようです。

森本 個人ではなく、ファッショ
ン市民大学の卒業生でグループを
作っているKFSの一連の活動も
対象になりますね。

小泉 ファッッションマンスリーに
参加してデザイナーの小倉久仁子
が初めてショーを開き、異人館俱
楽部でブティックを開く大里最世
子も2回ショーを催しましたね。
コトンを扱った神戸らしい雰
気で、個性があります。

福富 こうしてみるとデザイナー
もなかなか頑張ってるわね。

小泉 紳士服業界では、渡辺洋服店の会長、渡辺利雄が編集委員長になって「神戸洋服百年史」という立派な本を発行しましたよ。

藤本 紳士服はチームワークと組織作りがばっちりきまっていますね
小泉 若手では、柴田音吉洋服店の柴田啓嗣が、ゴールドンベールの服地の販売権をドーメル社と合併会社のシバタ・ブリテイッシュ・テキスタイルが獲得したということとで英国王室から金メダルを受けましたね。

藤本 KSAの神戸セピルローアソシエイツが自作自演で開いたショーも面白かったわ。

福富 紳士服は職人的なグループでがっちりまとまっていますね。

★新分野、

身障者ファッションに

森本 今年異人館倶楽部ができたのも良い仕事だが、キングスコートやローズガーデンといった先駆者がいたわけだからね。

畑崎 去年出版された「DRESS AGE」も写真が綺麗で面白いファッション誌だね。



福富 芳美さん



森本 泰好さん



畑崎 広敏さん



藤本ハルミさん



本誌・小泉美喜子

小泉 サブをやった小島素治がやっていて、神戸発のインターナショナルな雑誌ですね。

畑崎 なかなか良い本だし、長く続くといいんだがね。

森本 ミカゲガーデンシティもなかなか良いファッションビルだ。

小泉 3店舗目を出店したアンリシャルパンティエの蟻田尚邦も頑張ってるし、ガストロノミはフック神戸店の岩田弘三が広がってますね。KFR（コウベファッションリョウニン）も活動が続いていて六段の山田幸男やビストロ・ドウ・リヨンの山崎良平、芹屋にコーヒーのないカフェを作ったハイジの前田昌宏など若い世代が意欲的で嬉しいですね。

森本 ジャンムーランの美木剛やベルゲンの安田義男など、味づくりにファッション性をプラスしましたね。

藤本 真珠のメツカの神戸では、金子真珠の寺尾匡子や大月真珠の土居満代などパールデザインがいろいろしています。

畑崎 最終的には、世間の良い意味で影響力があり、商売気抜きで

やってるとか、かなりユニークなものを選びたいね。

そういう意味では米田博司の仕事は立派だね。我が社も協力したいものですね。

森本 私も彼の仕事は評価しますね。個人が対象かKFSの一連の活動としてそういったグループが対象かどちらがいいのかな。

畑崎 しかし身障者のファッションを手掛けるというのは新しい分野へのチャレンジですね。

藤本 さんちかで展示会をやるという予定もあるようですよ。

畑崎 こういう仕事はショーをやることより、コッソコやっていくことが大切やし受賞を機会に一層発憤してもらえたらね。

藤本 動機も純粹ですし大変な情熱をもってやっておられますね。

福富 市野木は商売だけでなく非常に勉強もし教育という立場もふまえてよくやっています。

藤本 ショーをやるたびに良くなりこれから期待できますね。

森本 人間の発掘とこの賞に多様性をもたせるためにも米田博司に決定することにしましょう。

●月刊神戸っ子18周年記念

第8回ブルーメール賞／音楽部門選考座談会

意欲的でフレッシュな

プリマドンナ坂本環に

吉村一夫

△音楽評論家△

柴田 仁

△音楽評論家△

小石忠男

△音楽評論家△

★女流ピアノリストの
飛躍

編集部 例によって昨年開かれた演奏会のなかから印象に残るものをひろいながら選考をすすめたいと思います。ある程度部門に分けて、始めにピアノから。

柴田 小沢雅世が朝比奈千足の指揮者としてのデビューリサイタル

△7月21日・大阪厚生年金会館△に出演したのと、リサイタル△10月30日・毎日国際サロン△を開催しています。

吉村 指は動くんですけど……おもしろさがないんですね。

柴田 それから神戸女学院出身の吹田周子がリサイタル△3月24日・神戸文化ホール△を開いています。これは強く印象に残ってますね。

小石 布野ゆき子は渡辺暁雄指揮の日本フィル△10月20日・フェスティバルホール△に出ていますね。

柴田 布野は一昨年県民小劇場で

リサイタルを開いて音楽クリティッククラブ新人賞と神戸灘ライオンズクラブ音楽賞を受賞していますが、やはりその時の方が良かったようです。けどまだまだ今後が楽しみです。

小石 同時に受賞したソプラノの坂本環とジョイントコンサートを三月に開いたり、今後いくらでもチャンスがあると考えてもいいでしょう。

柴田 鞍井博子がニューヨーク・コンサート△11月11日・青屋ルナホール△に出ていますね。

吉村 まだ弱いね。

小石 伊藤ルミが大阪フィルの神戸演奏会△5月10日・神戸文化ホール・指揮／朝比奈隆△でベートーベンの「皇帝」を弾きましたね。

吉村 コンチェルトを演るのはたいへんなことですよ。

柴田 毎年候補にあがってきますね。いろいろと演奏活動を蓄積し

てきた伊藤としては意気込みは大きかったでしょうね。

小石 ピアノ部門に他にもありますが、田原富子、関晴子という最有力候補となる人がすでに受賞していて、次に続く人がなかなか出てきませんね。

吉村 一次選考通過として、吹田周子と伊藤ルミを残しておきましょう。

★松本幸三は
「トスカ」に期待

柴田 二期会の歌劇「コシ・ファン・トゥッテ」△6月7日・大阪厚生年金会館△に高文二が入ってましたね。

吉村 いい声だけどパンチがなく、ちよっと弱いな。

小石 移川澄也が独唱会△5月16日・県民小劇場△を開いてました。なかなか良かったですね。だけど高や移川は現在は東京の人ですね。

柴田 岡田晴美がリサイタル△11月6日・毎日ホールVを開いたり、第九△12月23日・神戸文化ホール・指揮／朝比奈隆Vやヴィエールのメサイヤ△12月12日・大阪厚生年金会館Vと活発な動きをみせましたね。リサイタルは充実した内容でした。

小石 活発な動きでは三室堯がその同じ第九に出たりしました。

柴田 決定打が出ないですね。

小石 非常に安定している。声はいいし、歌はうまいし、出れば申し分のない歌なんだけど。

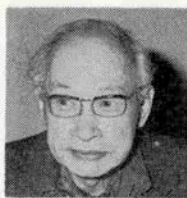
柴田 欲のない人ですね。

吉村 自己顕示欲に対して執念がないんですね。次の機会を待っていいでしょう。

小石 松本幸三がイタリア留学からの帰国記念リサイタル△12月1日・毎日ホールVを開きましたね。

柴田 技巧的にもしるく聞かせましたが、全体的にはまあまあの出来でしたね。留学といっても、一年の間で大きな収穫をつかむのはむづかしいことで、これからジリジリと勉強の成果を出せばいいですね。

小石 今年、小沢征爾指揮による



吉村一夫さん



柴田 仁さん



小石忠男さん

歌劇「トスカ」に出ますから、それに期待しましょう。

柴田 井上和世がサマーコンサート△7月20日・神戸文化ホールVに出演してましたけど、活動として弱かったですね。

小石 関西歌劇団定期公演で「ドン・ジョヴァンニ」△5月25日・大阪厚生年金会館Vと「トロヴァトーレ」△11月9日・大阪厚生年金会館Vに出演した坂本環がいます。

吉村 坂本は有力候補ですね。神戸中央合唱団が全日本合唱コンクール△全国大会／11月23日・両館市民会館Vで六度目の金賞を受賞してますね。まあこれはもう安定の域に達してますね。

柴田 となると声楽の部門では三室と坂本を第一次選考通過としましょう。

★北山隆の定評ある安定性

小石 指揮者としての朝比奈千足はデビューしたばかりだから、もう少し様子をみましょう。

柴田 たにしの会という作曲者のグループが毎年発表会を開いてい

ますね。昨年は第七回△10月19日・県民小劇場Vで、特に良かったとは思いませんが、よく続いてますね。中西寛の作品がおもしろかったですね。

吉村 リコーダーの北山隆が相変らず活発でしょう。

柴田 リサイタル△6月16日・芦屋ルナホールVの他テレマンアンサンブルと一緒に活躍しています。

小石 問題なしという感じ。

柴田 舞踊界では上甲裕久が振付で頑張ってる。また加藤きよ子が初めてのリサイタル△6月27日・神戸文化ホールVを開いてますね。

吉村 最終的に坂本と北山にしばらくいいんじゃないかな。

小石 声楽と器楽だから比較はむづかしいですね。坂本は素質があつて、売出し中って感じですね。

吉村 いい声ですよ。歌はまず良い声でないといけない。しかし若いから仕方ないけど、まだよく練れていないね。

小石 仕事として優秀ですね。勉強家ですよ。

吉村 本当にテクニカルで安定しているというにはほど遠い。

柴田 その点北山は安定していますね。

小石 二人とも過去の蓄積もあつて、優劣つけ難いですね。

吉村 坂本のフレッシュさを買って、今回は坂本に決めましょう。

●月刊神戸っ子18周年記念

第8回ブルーメール賞／古典芸能部門選考座談会

秀れた素質、たゆまぬ研鑽 に期待して藤井徳三に

佐野漣箕（神戸新聞文化
事業局長）坂元英夫（能楽研究家）小泉康夫（能楽研究家
本誌編集長）

★惜まれる香西精氏の逝去

編集部 ここ数年、古典芸能部門に於て能楽の分野の活躍、業績は特に目覚ましいものがありました。第一回より花柳芳恵一子、若柳吉由二、吉井順一、花柳芳五三郎、花柳吉叟、藤間緑寿郎、尾上菊見と続いたブルーメール賞、第三回の吉井順一以来の能楽界での選考となりますが、まず昨年、一昨年の全般的な活動状況から進めたいと思います。

坂元 能は今や世界的な芸術と認められ、神戸でも最近とみに盛んになってきたのは事実ですね。

小泉 催しから挙げれば、年初めに関西では唯一の「神戸五流能」

（観世流、喜多流、金剛流、金春流、宝生流／主催・神戸市）があり年頭を飾る大きな能です。また神戸観世会と神戸新聞社共催で行

われる秋十月の大会に「神戸能」がありその他に市の教育委員会・文化課が軸になって年に二十二回学生鑑賞能（市内の中学生を対象）というのがありますね。

坂元 職分家を中心とした同門会も加えられて幅広くなりました。

佐野 特に「神戸能」は第六回を迎え定着してきました。同時に元老級は一層充実、中堅層は伸び、新人が育って人材も多彩になってきたのは顕著です。

小泉 神戸の能楽界は質的に水準が高くなってるんじゃないでしょうか。年四回開かれる神戸観世会の定期能も充実していますね。

坂元 確かに質的に向上してきましたね。特に中堅層が目覚ましい活躍ぶりを示していますよ。

小泉 神戸能楽界の発展に貢献された能楽評論家・香西精さんが昨年他界されたのは本当に惜しい。

佐野 神戸ばかりでなく日本の能

楽界にとって大きな損失ですね。

小泉 昨年末、観世寿夫さんも他界され、神戸能には登場せずじまいで非常に残念。この人も今後の日本能楽界を背負って立つべきだったのに。だが観世栄夫が復帰し期待される一面はありますが。

坂元 柱は失なったが新しい支えを得て頑張つて欲しい。ニュースとしては朗報になるでしょう。

小泉 朗報といえば、昨年広く一般への能の普及をめざして創られた能楽教室も話題呼びました。年間に六回開催され盛況でした。

佐野 より多くの人が伝統芸術である能の魅力に触れる場ができたのは喜ばしい限り。そして質的に向上充実してきた神戸の能楽界にもっと陽を当てなければ……。

★神戸の双壁、

藤井久雄と上田照也

佐野 実際の舞台面ではどうでし

よう。梅若万三郎の「鷺」は、話題を呼び好評でしたね。

坂元 立派ではあったがボビュラーな曲でないため比較が難しい。

佐野 昨年古稀を迎えた藤井久雄の祝賀能での「蜃捨」は秀逸。七十年間の人生のすべてを注ぎ全身全霊で舞う姿は、格調高かった。

昨年、神戸新聞平和賞(文化部門)も受賞しましたが。

小泉 上田照也の「三番能」も画期的な能でした。神戸観世会の理事長を勤め、能の普及に身を注ぎプロデュース面においても天分を発揮して、縦横の活躍ぶりです。

佐野 舞台でも精力的、地方への稽古も熱心ですね。

小泉 今や大曲の地謡で藤井久雄と上田照也といえれば関西はおろか全国でも貴重な存在ですから。坂元 芸風も対照的ですかえってそれがいいですね。

小泉 しかしこの二人、ブルーメール賞というより文化賞級ですね「土蜘蛛」の吉井順一も個性のある芸風の持ち主といえますね。

佐野 藤井徳三の「鞍馬天狗」は豪快で繊細でリズムミカル、良く出

来てました。

坂元 徳三は家元で八年間、芸とともに人間的にも修業。まだ未完成だが秀れた素質を持っていますよ

小泉 力強い声量と美声は彼自身の天分でしょうね。学生鑑賞能の中心的な世話役もしており能の普及にもなかなか積極的です。

坂元 中堅の中で活躍したのは、勝部全一、洪井義信、山村啓雄、橋保向らでしょうか。

佐野 笠田稔、藤谷政二、梅若景久も話題の人物です。

坂元 実力からいえばもう一歩というところですね。

小泉 梅若景久、梅若盛義はこれからの梅若を担う人たちだ。

坂元 丹波篠山で能を開催し、意欲的な活躍もみせたんだけど。

小泉 藤井楽人、藤井完治も芸に幅が出てきました。これから大いに頑張っ

て欲しいのは洪井義寿、下川宜長あたりですね。

坂元 おもしろ味があって楽しみなのが久田徹二。

佐野 若手から、姫路の山田義高も挙げておきたい人ですね。

小泉 まだまだ未熟だが、将来が

楽しみなのが上田貴弘、上田拓司兄弟。これからどう取り組むか。

佐野 「朝長」のツレを演じた拓司には素直な感を受けました。

坂元 神戸の能楽界は確かにレベルが上っており、若い人材がどんどん着実に伸びてきましたね。

★素質と実力の藤井徳三

小泉 この辺での絞りたいと思うのですが、この二年限一生涯懸命芸に励み、能活動に積極的に取り組んだ点で、吉井順一の次に選に入るの藤井徳三が有力な候補でしょう。昨年の神戸能で「鞍馬天狗」を舞うため大分頑張ったように、その成果は表われてましたね。

坂元 芸の上では少し不安が残るけど、努力家であり学生鑑賞能での積極的な活躍ぶりは評価されていいし、焦点を当てたい人物だ。

佐野 舞台上でもどっしりと安定感があり、未来に明るいものを期待できそうです。賞を受けることを契機により一層の精進と芸の研鑽に励んで欲しいと思いますね。

坂元 素質の上に実力がプラスされ素晴らしい地謡になるでしょう。

藤井徳三に賛成です。

小泉 今以上に芸の向上に努力し普及を含める能活動に意欲的に取り組むことを条件に、第八回は藤井徳三に決定しましょう。



佐野 健策さん



坂元 英夫さん



本誌・小泉 康夫

バイタリテイ溢れる 堀尾貞治に

赤根和生△美術評論家▽
草野拓郎△神戸新聞学芸員▽

乾 由明△美術評論家▽

増田 洋△美術評論家▽



編集部 山口牧生△彫刻▽ 丸本耕

△造形▽ 小西保文△絵画▽ 藤原向

意△版画▽ 斉藤智△平面▽ 鄭相和

△絵画▽ 山本文彦△絵画▽と続きま

したブルーメール賞。昨年の全体的な講評からよろしくお願いし

す。

赤根 こうやって見ますと彫刻の受賞者が少ないですね。しかし今回は平面の作家の活躍は低調だったと思いますね。新谷琇紀△彫刻△はどうですか？ 宝塚大橋のミニメントなど話題は多かったし、いつもブルーメール賞のブロンズ像を造ってる……。

乾 確かにいま平面は新しい仕事をやってる人は少ない。立体の方に注目する作品がありますね。これは現代美術に共通していえ

例えば、増田正和△彫刻▽ 田中薫

△彫刻▽ 堀尾貞治△造形▽ 木下佳

津代△平面▽ 藤飯治平△絵画▽

ち……

増田 主なところの名が挙がりましたが神戸での発表がないのでどうかと思いますが昇外義△日本画▽

藤田清照△絵画▽の二人。堀尾、田

中と並んで宮崎豊治△彫刻▽もいい

ですね。南俊宏△絵画▽ 南和好△絵

画▽も頑張っている。

草野 昨年は彫刻作家が活躍しま

したね。山口牧生の離宮公園の作

品、河口龍夫△造形▽ 増田正和、

県民ギャラリーでの 丹下俊和△彫

刻▽の作品も印象に残ってます。

鴨下葉子△平面▽ 菅野聖子△平面▽

松本泰山△日本画▽ 中右瑛△絵画▽

は日本的な抽象画でこれも印象に

残ってます。三木隆△絵画▽は画風

が急に変まりました。増田正和は

Qの仕事もいい。

乾 新人はなかなか出てこないで

すね。

増田 土井はじめ△日本画▽はサロ

ン・ド・ドートンヌに入選しました

草野 東浦好洋△絵画▽もね。

編集部 ここらで特にという人を

しぼっていただけますか。

赤根 宮崎豊治は僕もいいと思

いますよ。新谷琇紀と堀尾貞治も。

増田 堀尾、宮崎、昇の三人を。

乾 堀尾、宮崎、藤飯を。

草野 増田正和、堀尾、田中、新

谷というところですかね。

赤根 中右瑛も残したいが、ブル

ーメールとなると……

乾 抽象は日本的に見てどうす

かね。新谷も宝塚のあいう問題

がある時だけにネ。

増田 新谷の一連の作品の中でと

びぬけていい作品というわけでも

ないし。

乾 あれがすごく芸術的にいい作

品であるとは思えない。

草野 室内彫刻としてはいいんで

すがね。

赤根 まずまず匠になるという危険性がありますね。グレコから脱けだせないな。

増田 アイデアの豊かさと新鮮さに驚かされるのは堀尾ですね。昇外義が沈黙を破って東京で個展をやり、今までの作品を深めたという点を買いますネ。

草野 堀尾には何をやるか解らないという魅力、宮崎にはある程度固まりがでてきたという感じ。二人は良き友人でライバルです。それに動く彫刻の田中を加えたいが
増田 田中の作品は小さいのに比べ須磨の作品を見てもおわりのように大きいのがもう一つ面白くない。離宮公園のことを考えると宮崎のは良かった。あんな面白いのを出品できるということを考えたら宮崎の方が完成した作品を出している。

乾 あれは美術館の引きとり手になかった。しかし今までの彫刻になかったものを出して来たよね。
増田 河口龍夫が低滞ぎみです。
赤根 エンバ賞にも僕らが知ってるものを出品している。彼の意味



赤根 和生



乾 由明



増田 洋



草野 拓郎

がないですよ。

乾 大阪独文化センターでやったのはさびの仕事でした。発想としては前に西武でやったのを繰り返しますが、河口ともなると同じものになると面白くない。そこがっらいとこです。

草野 増田正和は実績もあるし、昨年の活躍もある。

赤根 木下佳津代は意欲的だね。

増田 奥田義己(△平面▽が長いスランプから脱け出てきたようだ。

編集部 では、再度名前の挙がった人の中で選んでいただきたいと思いますが。

増田 中右は久々に個展をしたというだけで内容が深まったと言いがたい。

乾 賛成です。新谷は：

赤根 地元での知名度のわりに、発表がないね、兄妹展はあるが。

乾 素質の良さは確めるが、今年はされた方がよいと思うね。

赤根 自分のテーマをもたなくてはネ。

増田 増田正和は決定打不足。

草野 ポートアイランドの彫刻など面白いと思うんですけど。

増田 彼の、一つの頂点に達しているけどそれ以後のアイデアが自分の作品に出てこない。山口の「落日のスケール」のようだね。

赤根 藤飯は別格だね。

乾 増田と同様に決定打不足。水準の高い仕事を持続しているというみで評価はします。

★宮崎、堀尾、昇を投票で

決戦、堀尾、昇、票を分ける

乾 昇は神戸でやっていない我々は見えないので何とも。

草野 実績のある人ですがね。堀尾の神戸での活躍は素晴らしい。起爆力のある人ですね。

増田 半どんの会の奨励賞にひき続きここで堀尾さんにあげたい。

草野 昇は密度の濃い日本画の実績はあるが地元でやってない弱みがありますね。

乾 僕は堀尾に入れましたから賛成です。これからの将来のある人だし、できる人だと思います。

編集部 では、第八回ブルーメール賞美術部門は堀尾貞治さんへ決定しました。

鉄粉かいろ

諸岡博熊

〈神戸市企画局参事〉

鉄粉といって馬鹿にする人がいる。ところがこれが意外と日常生活のなかに入り込んでいるのだ。

それは、一昨年ごろからブームとなった携帯用の鉄粉かいろで、主に、ハイキング、ゴルフ、釣りなどのレジャー面で利用されていた。ところが、比較的若い人々に人気が出ている。つまり、薄着対策のために使用するので、ファッションにも影響をもつようになってきた。

この便利さは、たて、よこ約10センチ程度の小袋でかさばらず、身体のだこにでもあてられることであろう。その上、火気を使わないもので使い捨て自由といった便利なもの。

X X X

鉄粉かいろの発熱の原理は、鉄粉が酸素と化合してさびるとき発熱する性質をうまく利用したもの。市販のものは、小袋の中にA剤とB剤が入っている。そのひとつが鉄粉剤で他が食塩・酸剤である。

食塩・酸を入れるのは、鉄粉の酸化を促進させるためのもの。

使用に当り、密封された小袋の中で、A・B両剤をまぜればよいのだが、要領として、袋をもんだりいためたりしないで、中味の少ない方を上にして、上下に強く振ると両剤がよくまざる。第1図に振り落とすの仕方、第2図に混合の要領を图示した。ここで注意を要することは、通気窓をふさがないようにして、身体が必要なくろにあてがうこと。空気の流通がないと発熱しないので、使用するときは通気窓のラベルをはがし、使用しないときは、通気窓をラベルでふさげばよい。このとき発熱

〔振り落しの仕方〕



第 1 図

〔混合の仕方〕



第 2 図

は止まるが、混合剤となつていたので、有効時間内のみ再使用が可能である。

X X X

鉄粉はさらに、かいろばかりでなく、腐敗しやすい食品の輸送や貯蔵に応用されだしている。つまり、食品は空気中の好気性菌の活動で腐敗するので冷凍保存法が通常である。ところが、この保存法では、食品が変質したり味が落ちたりする。そこで食品を包装するとき、鉄粉かいろと同様の原料を封入すると、包装容器中の空気中に含まれている酸素が鉄粉にうばわれて酸化するため、いわゆる酸欠状態となる。好気性菌は酸欠のため活動ができなくなり、食品は腐りにくくなる。

食品の包装中に鉄粉の小袋を入れるだけで、食品の鮮度や品質を保てるので、食品流通面に大きな変化が生ずるのではないかとわっている。

この脱酸素剤の応用で冷凍保存よりも味もよく長期保存に耐えるようになった。たとえば、プラスチック包装の中に、脱酸素剤と食肉を同封したとき、零度以上の温度で四十日間も保存ができしかも変質や味の変化がみられないといわれる。

今後、家庭にも普及することだろう。

こんにちは赤ちゃん



竹本靖司くん / 芦屋市津知町

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大柵町1番18号
国道芦屋川電停東50米(明治生命南)
☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

幼児歯科 小児歯科

SAMOTO PEDIATRIC DENTISTRY

佐本小児歯科

母親教室

(初診日) 火曜日 午前9時30分

金曜日 午後1時30分

(木曜日は休診)

そごう前センター街東角・さんちか入口
住友銀行三宮ビル6階

〒650 生田区加納町5丁目39

TEL (078)331-6302~3

